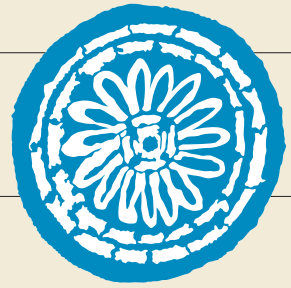


あきまる 秋麻呂くん 通信

『秋田城』と、
みんなの絆を
つなぎたいから。

つながる海のみち
～秋田城と日本海交流～



令和2年7月31日秋田城跡歴史資料館



秋麻呂くん

秋麻呂くん通信は、皆さんに秋田城のことをよく知ってもらい、秋田城との絆を深めてもらうための情報誌です。今回は、秋田城と日本海をめぐる交流について紹介します。



■現在の秋田港と史跡秋田城跡



秋田城と日本海交流

秋田城は、奈良時代に造られた最北の古代城柵です。城柵とは律令国家が東北地方各地に支配拠点として設置した大規模な地方官庁ですが、その中で秋田城は最北の城柵として北方世界・大陸までつながる日本海交流の拠点としての重要な役割を担っていました。その役割は中世以降も秋田湊に引き継がれ、近世には北前船の寄港地として繁栄しました。そして、現代の秋田港も重要港湾として、活況を呈しています。



北陸との交流



■煮炊用の赤褐色土器甕 せきかつしよど き かめ



■横瓶(左)と鳥形土器(右) よこびん



■後城遺跡出土土器 うしろじよ



■第16号漆紙文書

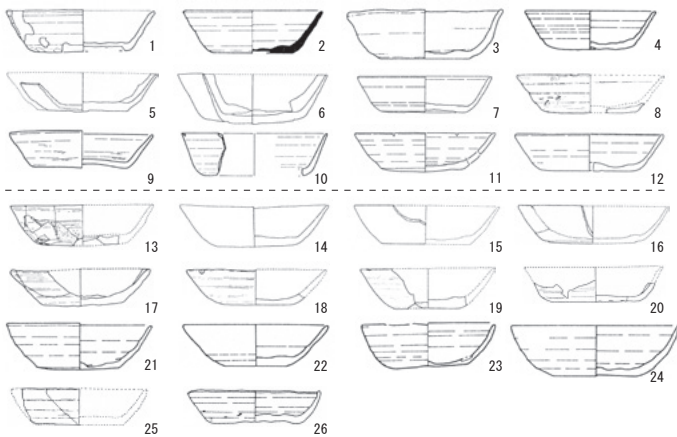
古代の秋田城やその関連遺跡で煮炊用に用いられた甕などの日常的土器は日本海に面した北陸地域の影響を強く受けています。また、横瓶(横長の容器)や鳥形土器など特殊な形のものも同様です。なかでも秋田城に隣接する後城遺跡は、古代においては秋田城の造営に関わった各地からの移民の集落であったと考えられており、そのなかでも把手付土器など北陸地方との関わりが想定される土器が多数出土しています。

さらに、秋田城から出土する文字資料にみられる氏族名も北陸との強い関わりをうかがわせます。秋田城出土第16号漆紙文書には「江沼臣」・「高志公」といった北陸の地名を有した氏族名が記されています。

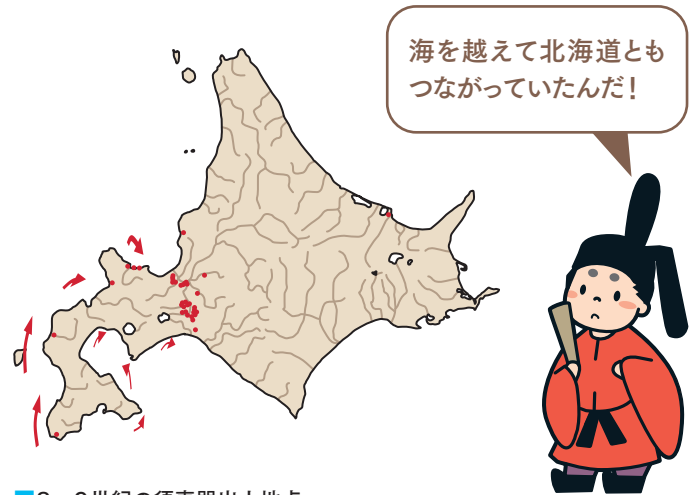
また、秋田城跡出土第80号木簡にみられる「他田(部)」・「神人(部)」・「丈部」といった氏族名は新潟県内出土の文字資料などにも記されています。



北方世界との交流



■北海道で出土した秋田産の須恵器



■8~9世紀の須恵器出土地点

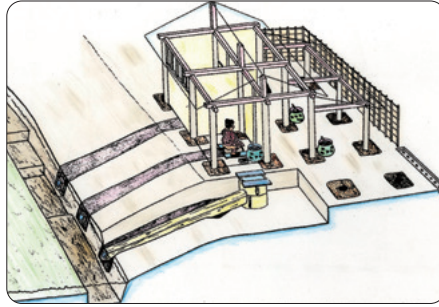
古代において現在の北海道を中心とした北方世界からはヒグマの皮や昆布などが本州にもたらされました。一方、北海道へは秋田市の新城窯跡群をはじめとする秋田城周辺の窯跡で生産された須恵器がもたらされました。これらの相互交流もまた日本海ルートで行われ、秋田城が重要な交流と交易の結節点となりました。



大陸との交流



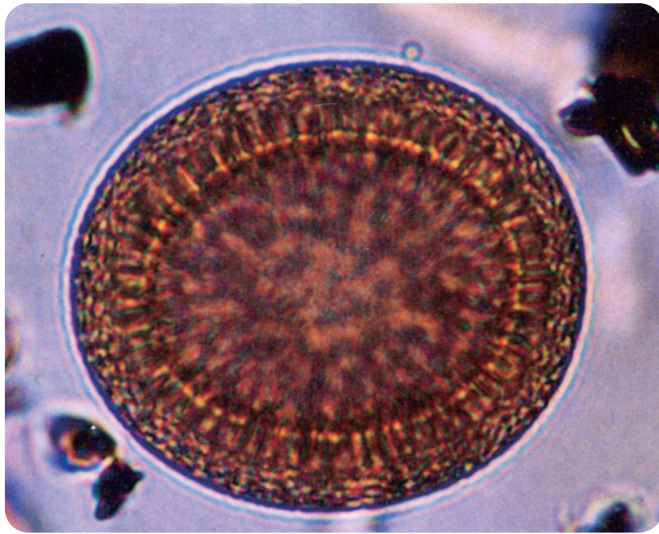
■ 水洗廁舎跡の発見の様子



■ 復元推定イラスト



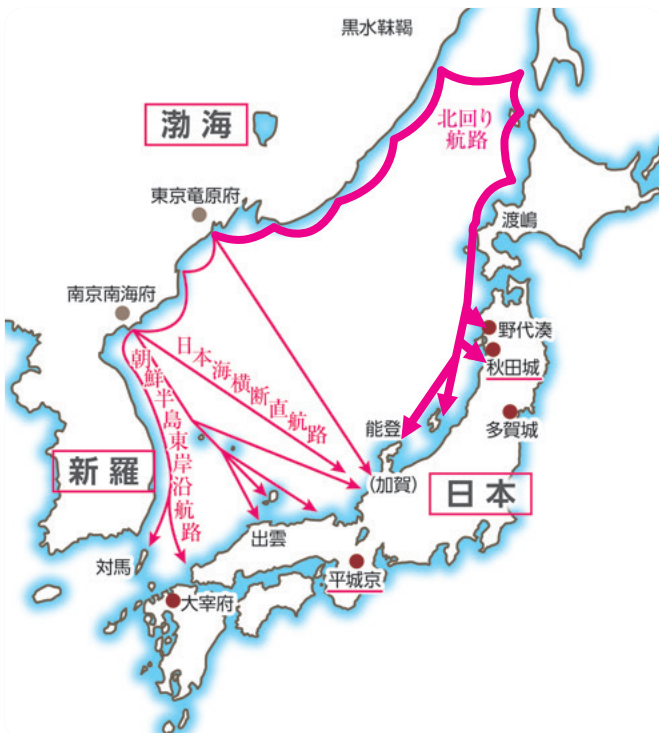
■ 復元された古代水洗廁



■ 有鉤条虫卵

秋田城跡城外南東部の鶉ノ木地区では奈良時代後半に機能した水洗廁舎(トイレ)跡が発見されています。この水洗廁舎跡は掘立柱建物・目隠し塀と、便槽・木樋(暗渠)・沈殿槽を備えた水洗施設で構成されています。古代において建物を有し、かつ便槽と暗渠による水洗式であり、沈殿槽まで備えた水洗廁舎跡の発見事例は今のところ全国で唯一です。

さらに、沈殿槽に溜まった土を分析した結果、当時の日本列島にはない、豚食の習慣を有する人々から検出されることがある寄生虫の卵(有鉤条虫卵)が発見されています。これらのことから、当時日本と交流のあった、渤海国からの使者がこの立派なトイレを使った可能性が高いと考えられています。



■ 渤海使の来着ルート

渤海国は、現在の中国北東部、朝鮮半島北部からロシア沿海地方にかけて存在した国で、神亀4年(727)～延喜19年(919)まで、計34回の使節を日本に派遣しています。そのうち古代水洗廁舎が機能していた期間を含む8世紀の渤海使の来着地は出羽国が最も多く、神亀4年(727)～延暦14年(795)までの13回の来着のうち、出羽国に来着したものが6回を占めています。また、この時期の渤海使が来航する際に用いたのは日本海北回りルートであったと考えられています。以上のことから、秋田城が大陸までも含めた日本海交流の重要拠点として大きな役割を担っていたことが分かり、古代水洗廁舎跡はそのことを象徴する重要遺構であると言えます。

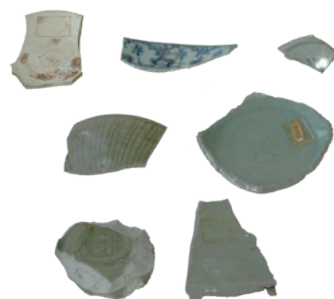
遠い大陸とまで交流していたんだ! 秋田は昔からグローバルだったんだね!



秋田湊の繁栄



■後城遺跡の発掘調査



■後城遺跡出土の中世陶磁器



■三津七湊位置図

左上の写真は秋田城と旧雄物川の河口に挟まれた段丘上に立地する後城遺跡の発掘調査の様子です。古代の後城遺跡は北陸などからの移民の集落であると考えられていますが、中世においては秋田湊の一部であったと考えられ、貿易陶磁器や日本列島各地の様々な陶器が出土しています。秋田湊は戦国時代に成立したとされる日本最古の海洋法規集「廻船式目」^{かいせんしきもく}において、日本の十大港湾の一つに数えられています。このうち七湊は太平洋側ではなく日本海側に立地しており、このことから日本海側の交流と海運の重要性がうかがえます。そして、その重要な交流、交易拠点の役割は近世の土崎湊にも引き継がれ、北前船寄港地として大きな繁栄を遂げました。

今も続く海のみち



■秋麻呂君もクルーズ船をお出迎え！

古代秋田城以来の長い歴史をもつ日本海交流拠点の役割は、現代の秋田港にも引き継がれています。秋田港は国の重要港湾の一つに指定されており、日々多種多様な船舶が行き交い活況を呈しています。また、近年は国内外からのお客様を乗せたクルーズ船も来港し、秋麻呂くんも港でのお出迎えに参加していました。

今後も、秋田港を基点とした日本海の交流を通じてより多くのお客様が秋田城跡歴史資料館・史跡公園に足を運んで下さるよう、秋田城の魅力を発信していきたいと思えます。

秋田城跡の各種事業やイベントに関するお問い合わせは

秋田市立秋田城跡歴史資料館

〒011-0907 秋田市寺内焼山9番6号

[TEL] 018-845-1837 [FAX] 018-845-1318

【開館時間】午前9時～午後4時30分

[E-Mail] ro-edac@city.akita.lg.jp

【休館日】年末年始(12月29日～1月3日)

[URL] <https://www.city.akita.lg.jp/kanko/kanrenshisetsu/1003616/index.html>

